

志摩市広報課 志摩びとの会事務局
T:517-0592
三重県志摩市河尻町東方3098-22 志摩市役所総合政務課内
TEL:0599-44-0205 FAX:0599-44-5252
e-mail:shimabito@city.shimane.jp



志摩びとの会 大阪交流会

開催中止のお知らせ

今年も残念ながら「大阪三重県人会」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開催が中止となりました。それに伴い、毎年県人会と同時に開催していた「志摩びとの会 大阪交流会」を中止とさせていただきます。

開催を心待ちにされていた皆さまには残念なお知らせとなりますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

～事務局通信～

「志摩びとだより」は、前回の発行からこれまでの間にあった出来事を、ピックアップしてお届けいたします。また、会員の皆様からの情報提供も随時募集しておりますので、ご協力いただける方は事務局までご連絡ください。

★イベント情報は、志摩びと MAIL にて定期配信！配信希望等のお問い合わせは志摩びとの会運営事務局まで！

2023年 G7 関係関係合会

(交通大臣会合)開催決定！

2023年5月に行われる G7 広島サミットに合わせて開催される 12 の関係会議のうちの一つ交通大臣会合の開催地が三重県志摩市に決定しました。

志摩市は、2016年に開催された伊勢志摩サミットをはじめとした国際会議の豊富な経験や、関係関係合会開催に相応しい静かで安全な環境です。

交通大臣会合に向け、全庁一丸となって各種取り組みを推進して参りますのでご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



2023年 G7 交通大臣会合決定

に関する市長コメント



本日、2023年の G7 交通大臣会合について、志摩市が開催地が決定しましたことは、誠に喜ばしい限りであります。これも、一見知事をはじめ、関係者の皆様とともに官民一体となって誘致活動取り組んだ成果であり、ご尽力をいただきましたすべての皆様に、厚く感謝申し上げます。

交通大臣会合の開催というチャンスを最大限に生かし、本市の豊かな自然環境・食文化といった魅力を国内外に発信するとともに、持続可能性の観点にも配慮した MICE の受入体制を整備し、国際会議の開催地としてのブランドの確立、サステナブルな観光地づくりに繋げてまいりたいと考えております。

今後、地元自治体として、会合の成功に向け、国土交通省など国の関係機関、三重県、関係団体等の皆様と連携し、市民の皆様のご協力をいただきながら、各国の閣僚、関係者の皆様をあたたかくお迎えできるよう地域一体となったおもてなしの準備を進めてまいります。

令和4年9月16日 橘爪 政吉

伊勢えび祭り開催決定！！

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年間開催されていなかった伊勢えび祭り。感染防止を徹底し、な・なんと3年ぶりに浜島町の浜島海浜公園で開催されます！！地元にいる私たちにとっても、久しぶりに大きなお祭りの開催にわくわくどきどき。

志摩市の伊勢えび祭は、何ととっても、みんなで一緒に踊りたくなるじゃこっぺ祭り。一度聴いたら耳に残る音楽。今回の開催を、首を長くして待っていらっしゃった方も多くいるのではないのでしょうか。

ぜひ、会員の皆様も久しぶりに開催予定の伊勢えび祭りに参加してみませんか。



第60回 伊勢えび祭り開催日時
とき：令和4年10月15日(土)
場所：浜島海浜公園

■タイムスケジュール

- 10:00～ 志摩特産品等物販市
- 14:00～ 式典(感謝祭)
- 15:00～ 浜島長組じゃこっぺ祭り
こども総踊り
- ※市内外の幼稚園児、保育園児、小中学生が自由に参加いただけます。浴衣など祭衣装でご参加ください。
- 16:00～ 伊勢えび長寿汁(有料)
- ステージイベント(翔大&長山みえ)
- 17:00～ じゃこっぺ祭り(海浜公園内)
- 18:45～ 花火



伊勢えび祭りホームページ



『志摩ブランド』とは、志摩市の優れた地域資源を市が認定する制度です。

認定商品の情報発信を通じて観光客等の誘致を促し、志摩市全体のイメージの向上に繋げる取り組みです。現在 26 商品が認定されており、志摩らしさを感じられる逸品ばかりですので、備忘等のおみやげや贈り物にご活用ください。

志摩市ふるさと応援寄附にも一部掲載されています。よろしくお願いいたします。

志摩ブランド一覧



～志摩市地域おこし協力隊のご紹介～水稲栽培担い手

吉澤 秀治(よしざわしゅうじ)さん

令和4年2月から吉澤秀治さんを水稲栽培の担い手として、地域おこし協力隊に任命しました。浜島町の高遠地区で志摩ブランドにも認定されている「伊勢志摩米産地コシヒカリ」「珠光」の栽培方法などを学んでいます。幼少時に稲刈りの体験をしたのが原点で、大学時代の卒業論文も「農のあるまちづくり」をテーマに書いたほど農業への憧れは常に抱いていた吉澤さん。これまでの仕事で培ったITの知識を活かして地域の魅力発信や10年先20年先に高遠で米作りをしたいという次の後継者が来るような仕組みづくりを日々考え奮闘中です。

